

USR 講習会の流れ

【『SS7』の概要】

プログラムの概要や入力操作の流れを説明します。

【モデル作成、結果確認】

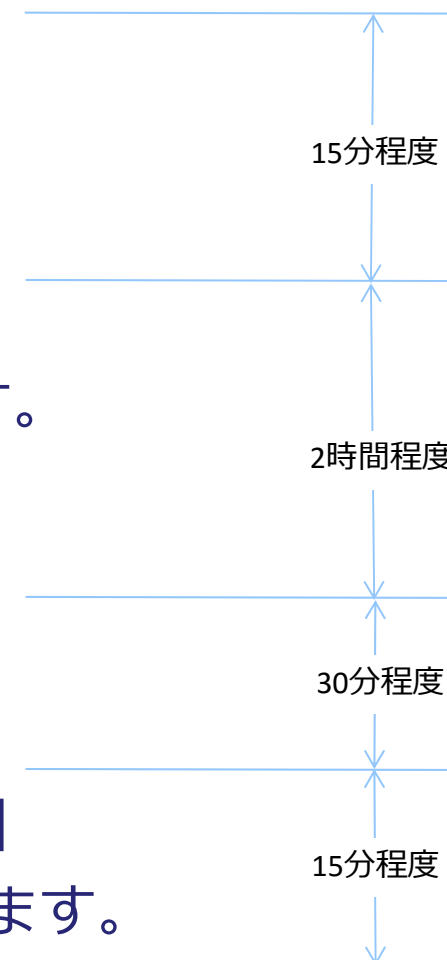
簡単なモデルの作成、結果確認までを行います。

【入力項目の説明】

各入力項目の概要を説明します。

【ライセンス取得・Q&Aの利用方法について】

ライセンスの取得、Q&Aの利用方法を説明します。



計算までの基本的な流れ

1 基本事項

- 建物概要
- 主体構造
- 基準スパン
- 階高

2 計算条件

- 剛性計算条件
- 荷重計算条件
- 応力計算条件
- 偏心率・剛性率
- 断面算定条件
- 柱脚断面算定条件
- 冷間角形計算条件
- 終局耐力計算条件
- 保有水平耐力計算条件

4 使用材料

- 標準使用材料

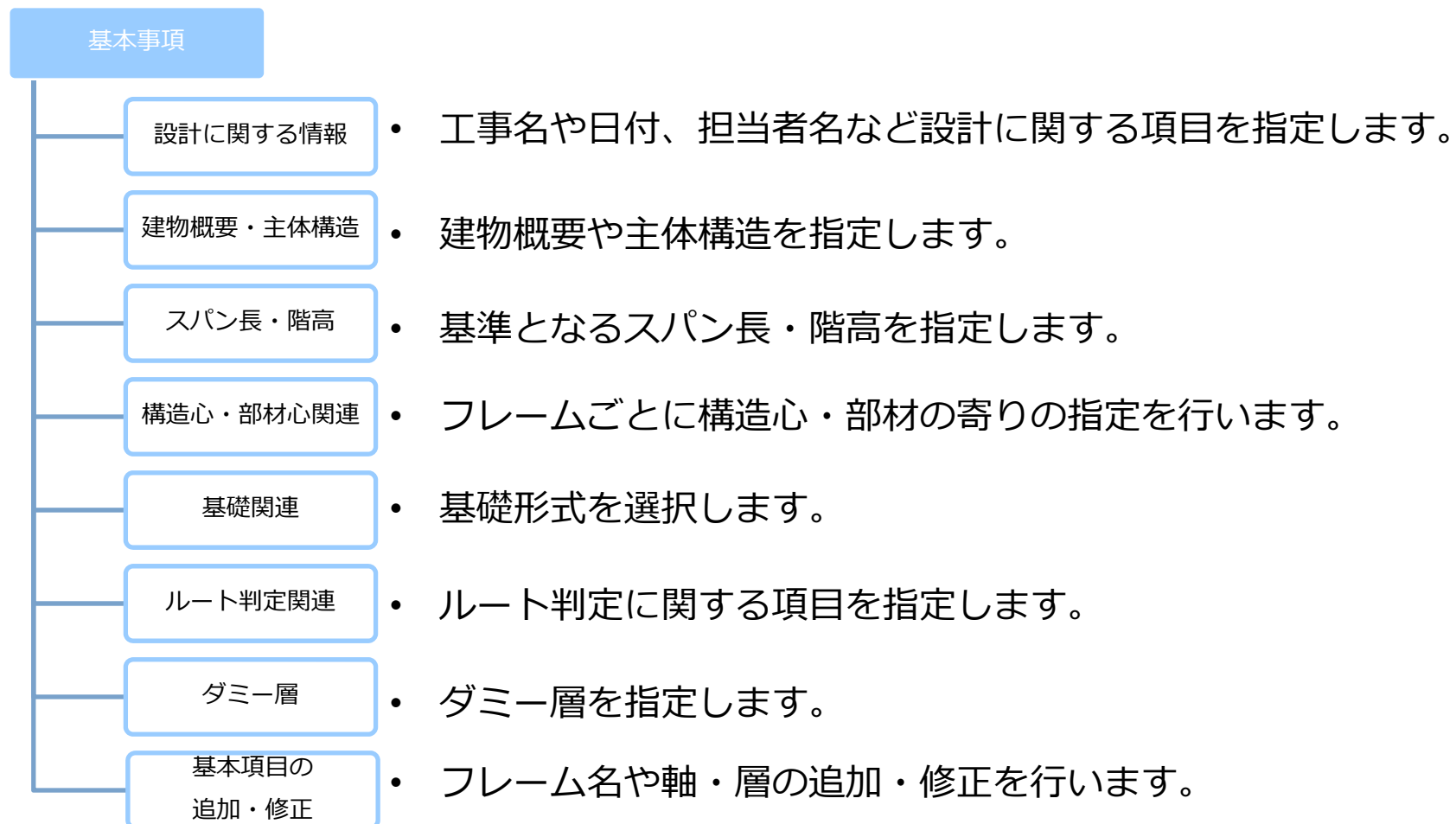
7 部材形状配置

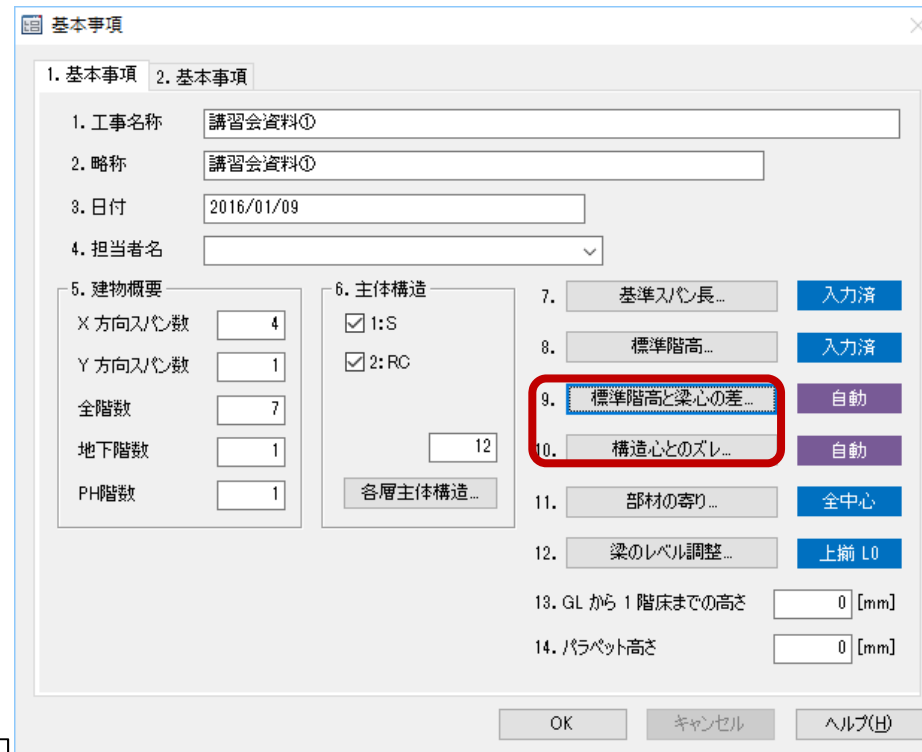
- 柱
- 梁

解析へ

その他の項目

3 建物特殊形状、5 荷重、6 鋼材リスト、8 特殊荷重及び補正重量、9 剛性、10 応力、11 ルート判定、
12 断面算定、13 基礎計算、14 部材耐力の直接入力、15 保有関連の直接入力、16 デフォルトデータの保存





PDF解説書P. 1.基本事項-3

- 構造階高を計算するため [8.標準階高] で指定した“梁天端”から“梁心までの距離”を層ごとに入力します。
- 構造心は [10.構造心とのズレ] の入力により定まります。入力を省略した場合、基準スパン長を構造スパン長とします。



PDF解説書P. 1.基本事項-3

基本事項 - 構造心とのズレ (フレーム単位)

Xフレーム	ズレ mm	Yフレーム	ズレ mm
X1	0	Y1	0
X2	0	Y2	0
X3	0	Y3	0
X4	0		

自動計算

閉じる

ヘルプ

基準スパン長が通り心間距離となります。

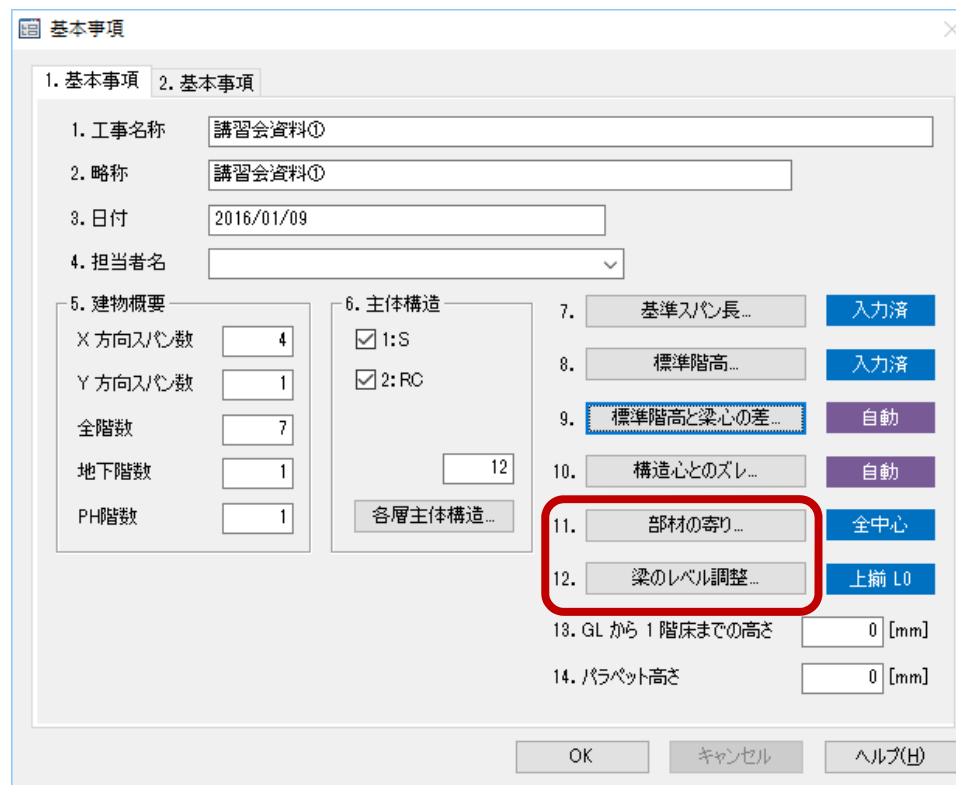
部材の寄り

構造心とのズレ

部材の寄りを指定することで、実状に近い形状となります。

注意: 構造心は[10. 構造心とのズレ]の入力により定まります。

- 通り心と部材の中心が一致しないときは、通り心と構造心とのズレを入力します。
- 通り心と柱心とのズレを平均した位置を構造心として自動計算します。



PDF解説書P. 1.基本事項-3

- 各部材の面を合わせるときなど、部材の寄りを指定します。部材の寄りを入力しないときは、通り心と部材心が一致します。
- 梁の位置を調整するために、[8.標準階高]からの梁レベル差を入力します。入力していないとき、すべての 梁の天端が揃うものとしします。

特殊形状

節点移動（軸振れ）

- 平面的にフレームが基準軸に対して傾斜する場合、またはフレームの一部が面外に折れる場合に指定します。

セットバック

- 柱が傾斜する場合に指定します。

節点上下移動

- ある節点のレベルが、標準梁天のレベルと異なる場合、そのレベル差を指定します。

節点回転移動

- への字形の平面など、節点群が相対距離を変えずにある点を基準に回転するような場合に指定します。

節点同一化

- 平面・立面に隅切りがある場合に指定します。

柱の回転

- 柱を回転させる場合に指定します。

部材の寄り

- 部材の寄りを階ごとに指定できます。

梁のレベル調整

- 梁のレベル調整を層ごとに指定できます。

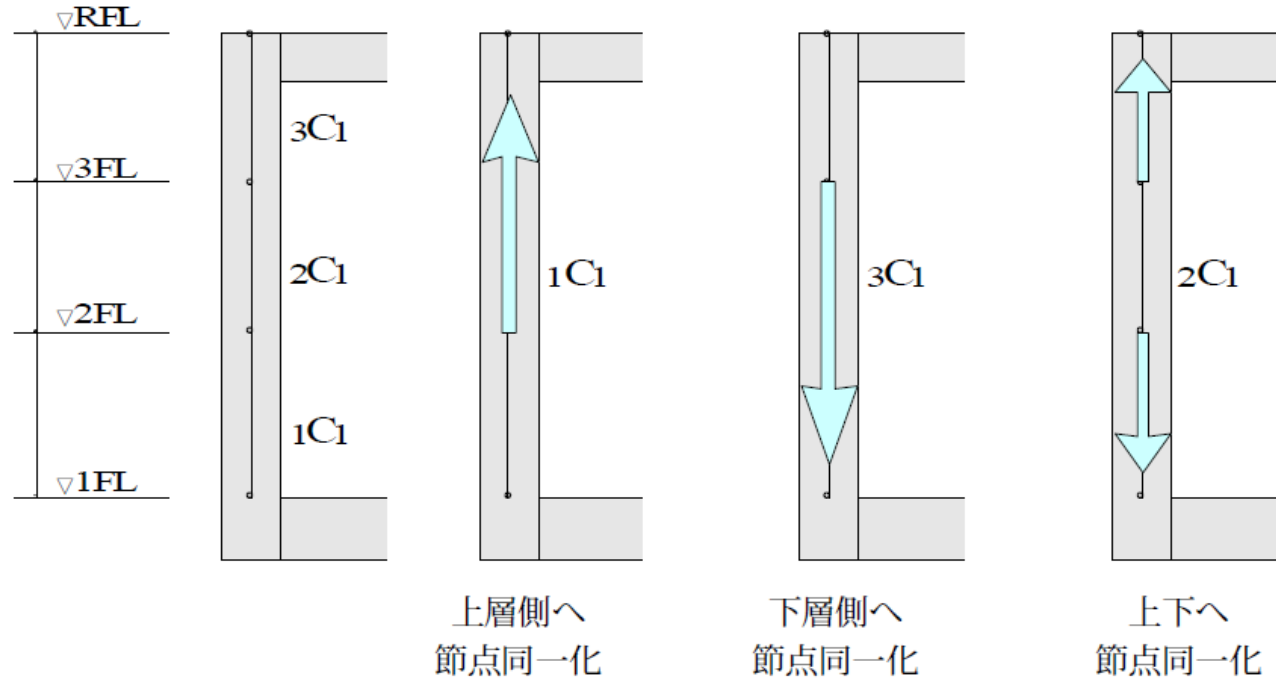
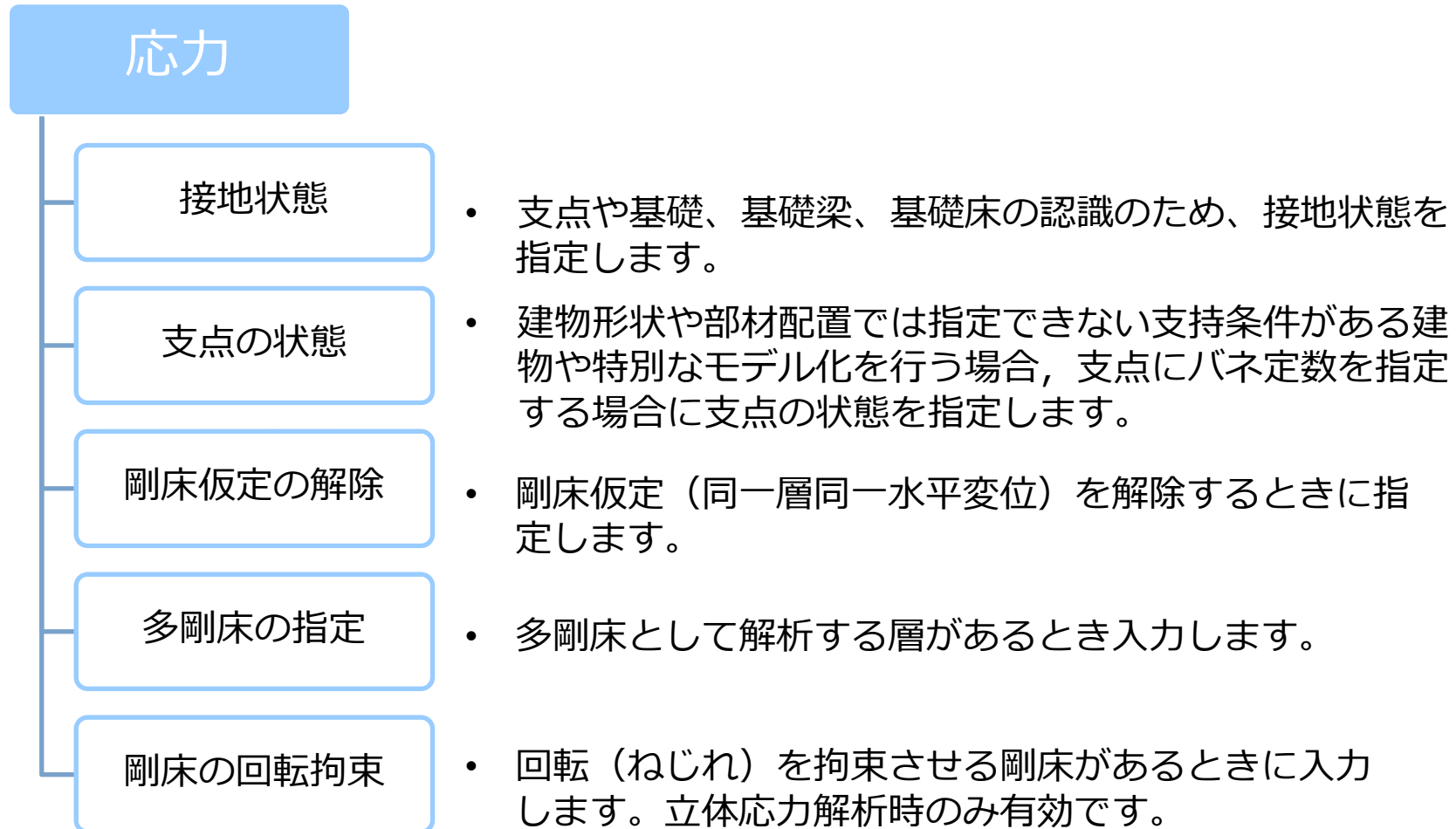
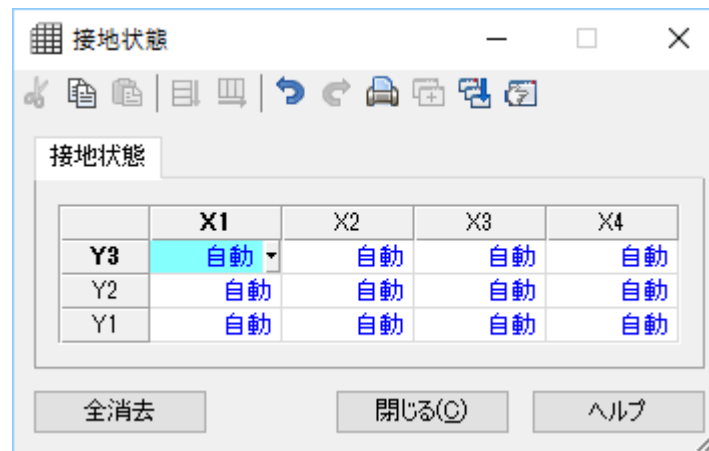


図 1.20

PDF解説書P. 3.建物特殊形状-7

- 鉛直方向の節点同一化によって多層にわたる場合は、柱の中間節点が生成されず多層にわたる柱を一つの柱とします。
- 柱符号は部材を配置した階の符号を採用します。一本部材を指定した際は扱いが異なりますので注意が必要です。

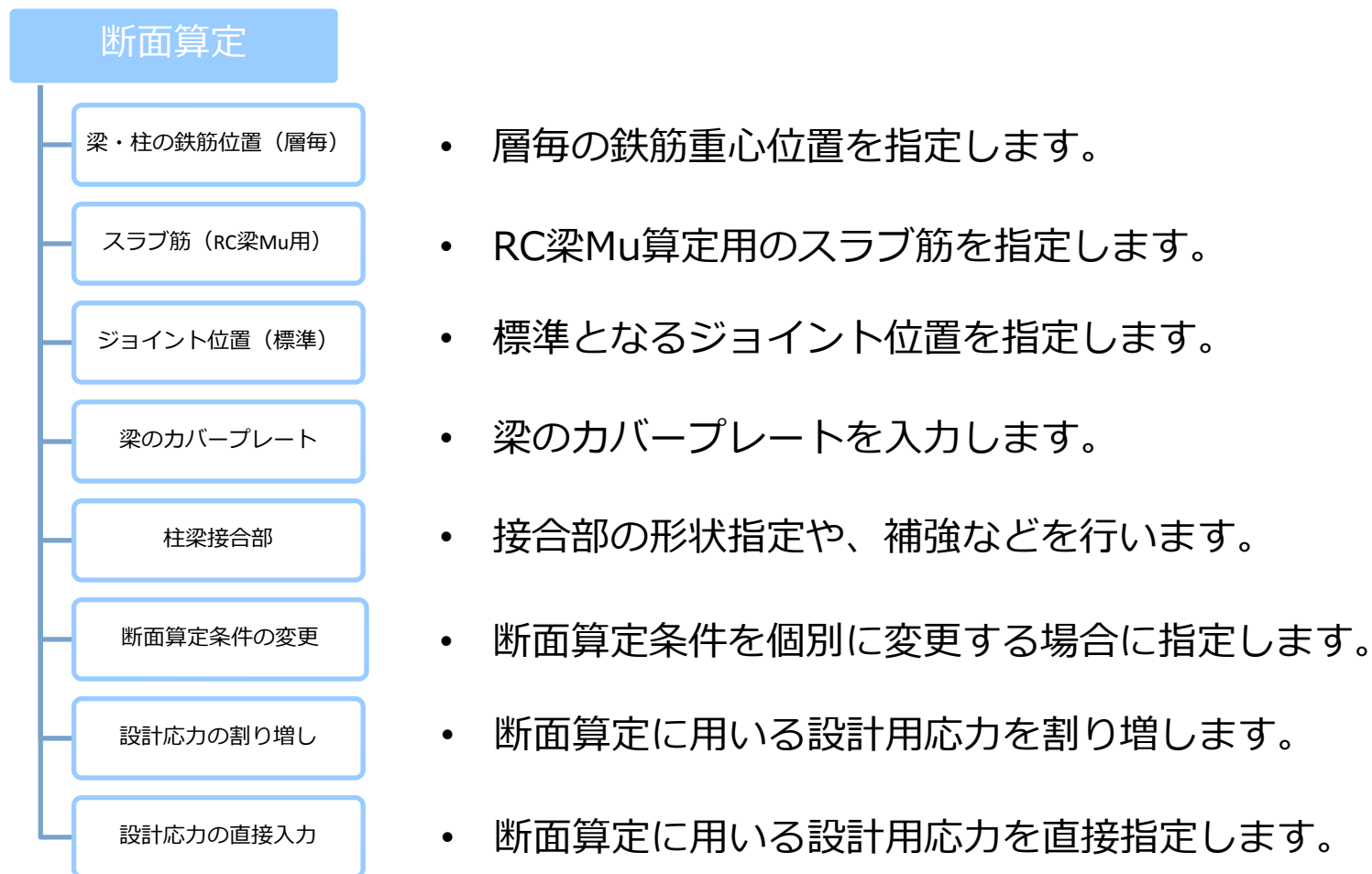




PDF解説書P. 10.応力-2

- 部材配置による各軸の最下の節点が接地するかしないか選択します。
0：自動 1：接地する 2：しない（接地しない）

“0：自動”のとき，GLより下にある節点は“接地する”と認識されます。





PDF解説書P. 12.断面算定-4

- 標準となるジョイント位置を指定します。[7.2大梁 配置－ジョイント]で部材ごとに入力することもできます。
- 継手の設計を行う場合はジョイント位置を指定する必要があります。